

# 28日 水曜

## 創世記

29:1 ヤコブは旅を続けて、東の人々の国へ行った。

29:2 ふと彼が見ると、野に井戸があった。ちょうどその傍らに、三つの羊の群れが伏していた。その井戸から群れに水を飲ませることになっていたからである。その井戸の口の上にある石は大きかった。

29:3 群れがみなそこに集められたら、その石を井戸の口から転がして、羊に水を飲ませ、その石を再び井戸の口の元の場所に戻すことになっていた。

29:4 ヤコブがその人たちに「兄弟たちよ、あなたたがたはどこの方ですか」と尋ねると、彼らは「私たちはハランの者です」と答えた。

29:5 それでヤコブが「あなたたがたはナホルの子ラバーンをご存じですか」と尋ねると、彼らは「よく知っています」と答えた。

29:6 ヤコブは彼らに尋ねた。「その人は元気ですか。」すると彼らは、「元気です。ほら、娘のラケルが羊を連れてやって来ます」と言った。

29:7 ヤコブは言った。「ご覧なさい。日はまだ高いし、群れを集める時間でもありません。羊に水を飲ませて、草を食べさせに戻ってはどうですか。」

29:8 すると彼らは言った。「そうはできません。群れがみな集められて、井戸の口から石を転がすまでは。それから、羊に水を飲ませるのです。」

29:9 ヤコブがまだ彼らと話しているとき、ラケルが父の羊の群れを連れてやって来た。彼女は羊を飼っていたのである。

29:10 ヤコブは、母の兄ラバーンの娘ラケルと、



聖書の記述

母の兄ラバーンの羊の群れを見ると、すぐ近寄って行って、井戸の口の上の石を転がし、母の兄ラバーンの羊の群れに水を飲ませた。

29:11 そしてヤコブはラケルに口づけし、声をあげて泣いた。

29:12 ヤコブはラケルに、自分は彼女の父の甥であり、リベカの子であることを告げた。彼女は走って行って、父にそのことを告げた。

29:13 ラバーンは妹の子ヤコブのことを聞くとすぐ、彼を迎えて走って行って、彼を抱きしめて口づけした。そして彼を自分の家に連れて帰った。ヤコブはラバーンに事の次第をすべて話した。

29:14 ラバーンは彼に「あなたは本当に私の骨肉だ」と言った。ヤコブは彼のところに一ヶ月滞在した。

ヤコブはあてもなく旅を続けなければなりませんでした。それは心細いものだったでしょう。しかしその方向の定まらないような行程の中で、主は彼を導いておられたのです。それはまさに祝福の約束のゆえです。

ヤコブは羊飼いたちがハランの者であることを知って、ハランにいる親戚のことを尋ねました。そこは母の実家と関係がある場所だったのです。

私たちは行き場も解決もわからないで、歩みや心がさまようときがあります。その中でも神様は私たちが知らないうちに、正しい方向、解決の方向へと導いていてくださるので。決して投げ出したり、絶望感や自己憐憫に陥らないようにしたいものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

